

営農だより 野菜版 5号

J A ふじ伊豆 御殿場営農経済センター
2025年（令和7年）6月20日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！！

夏野菜の病気の防除について

今年も本格的に梅雨のシーズンとなりました。また、これから夏に向けて気温が高くなり、台風も多く発生します。**高温多湿は病害虫発生の原因**となるので、排水対策・防風対策・適期防除を行い、栽培管理に努めて下さい。

【栽培上の留意点】

1. 長雨・日照不足の条件下では、軟弱・徒長株の発生や病害の多発が起こりやすい。気象の推移と生育状況に十分留意しつつ、排水対策や病害虫防除対策を徹底する。
2. ほ場の観察を定期的に行い、適期防除に努める。農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、他の野菜に飛散しないように散布する。
※同じ作物に同じ農薬を頻繁に使わないようローテーション防除を心がけましょう！
3. 果菜類（トマト、キュウリ、ナス等）では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりを行い着果負担を軽減する。
4. 生育初期に被害を受けた場合は、予備苗による植替えや再び播種を行い、被害の軽減に努める。被害が著しい場合には、他の品種又は作物に転換することも検討する。

【主要品目の発生病害及び防除対策】

トマト⇒疫病、葉かび病

疫病：疫病は葉、茎、果実に発生し、葉にははじめ不規則な水浸状の病斑を生じ、拡大して暗褐色の大型病斑となり、白色のカビを生じる。20℃前後で降雨続きの際に発生する。

葉かび病：葉かび病は主に葉の裏に淡褐色、ビロード状のカビが密生した病斑が葉、茎に発生する。23℃前後で温室やビニールハウスの場合に発生が多く、露地でも高温期に多発する。

【防除例】

薬剤名	対象病害	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数
ダコニール1000	疫病、葉かび病 炭疽病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回
プロポーズ顆粒水和剤	疫病 葉かび病	1,000~ 1,500倍	10~30ℓ	前日まで	3回
リドミルゴールドMZ	疫病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	2回
アミスター2070アブル	葉かび病 灰色かび病	2,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回

キュウリ⇒べと病

べと病：べと病は葉のみに発生する。高温多湿の施設栽培で発生が多く、淡褐色の丸い小斑点を生じ拡大していく。多湿下では暗色のカビを生じる。予防として、定期的な散布が必要。

炭疽病：炭疽病は葉、茎、果実に発生する。葉では黄褐色の円形大型病斑を生じ、後に白っぽくなり破れる。果実では、黄色のくぼんだ病斑を生じる。多湿下で病斑上に鮮肉色の粘着物を作る。

【防除例】

薬剤名	対象病害	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数
プロポーズ顆粒水和剤	べと病、黒星病 うどんこ病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	3回
アミスター2070アブル	べと病 炭疽病	2,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回
トップジンM水和剤	炭疽病 菌核病	1,500~ 2,000倍	10~30ℓ	前日まで	5回

ナス⇒うどんこ病、灰色かび病、風害

うどんこ病：ナスのうどんこ病は下葉から発生し、葉面は最初に小麦粉をまぶしたようになり、後に灰色となる。**気温28℃前後でやや乾燥気味の時に発生する。**

灰色かび病：灰色かび病は施設栽培で特に発生が多い。果実や葉についた古い花卉から始まることが多い。**曇雨天が続いて多湿になると多発する。**

風害：病害以外にも風の害により新芽が飛んでしまったり、樹勢が弱まったりした場合、液肥の散布や予防剤の散布を心がける。新芽が飛んでしまったものはわき芽を生かす。根元から飛んでしまったものは、苗が確保できれば植え替える。無ければ他の作物への植え替えも検討する。

【防除例】

薬剤名	対象病害	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数
ダコニール1000	うどんこ病 黒枯病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回
シグナムWDG	うどんこ病 灰色かび病	1,500倍	10~30ℓ	前日まで	3回
Zボルドー	すすかび病	500倍	10~30ℓ	—	—

ニンジンの管理

～春まきの管理方法を紹介します。初夏まき、夏まきも管理方法は一緒なので、栽培の際は参考にしてみてください！！～

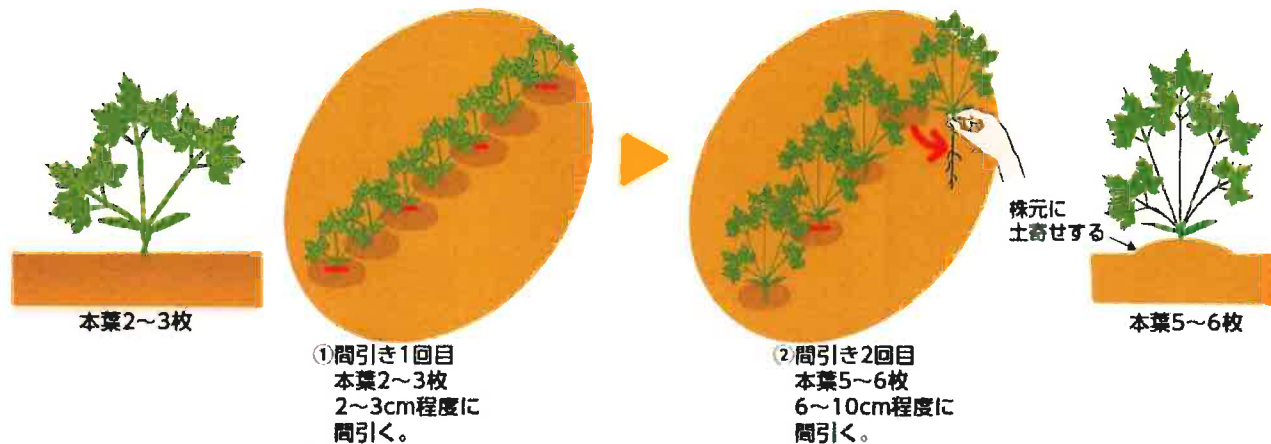
1. 間引き

発芽後50日間（本葉7枚程度）くらいで、根長がほぼ決定されます。この時期は特に乾燥と肥料不足に注意して、適時間引きを行い、スムーズに生育させることが大切。本葉4～6枚ごろの太り始める前が、生育の中で一番重要な時期です。

【間引きのポイント】

間引きの時、土が乾いている場合は、**あらかじめ水やりをして土を湿らせてから**間引くと作業がしやすくなります。同時に、必ず雑草も抜き取っておきましょう！！

- (1) 間引き1回目 本葉2～3枚 ⇒ 株間2～3cm程度に間引く。
(2) 間引き2回目 本葉5～6枚 ⇒ 最終株間6～10cm程度に間引く。



- (3) 間引き後、畝の表面を軽く中耕し土寄せする。（本葉7枚以降は行わない。）



【間引き菜】

ニンジンの葉にはビタミンやカルシウムが豊富です。間引きした葉は若くて柔らかいので、油炒めやおひたしなどの料理に利用できます。

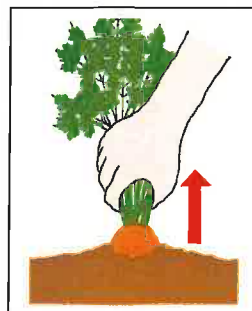
2. 追肥

2回目の間引きの時期に全農化成肥料 17-0-17 を1aあたり4kg 施肥します。

3. 収穫

- ・着色適温：16～20℃（13℃以下では着色阻害。）
- ・肥大適温：18～21℃（3℃以下では肥大しない。）

間引き以降、特に難しい栽培管理は不要です。生育後半に水やりや追肥は必要ありません。**ニンジンが太ってからの余分な追肥は厳禁**です。また、雨の多い年には加湿になり過ぎて根割れが生じる恐れがありますので、畑の排水対策を行い適度な湿度を保つように心掛けましょう。



4. 生理障害と病害虫対策

裂根：芯部（木部）の肥大に肉部（師部）の肥大が追いつかないために生じます。根の初期生育が不良で組織が老化した場合、収穫前の急激に肥大する環境下で発生します。保水と排水のよい畑を選び、有機質を多く施します。**追肥は早めに行い、生育後半の急激な肥効は避けて下さい。**



岐根（又根）：主根の直下に土塊や多量の未熟有機質、化学肥料が残っていると発生します。ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウが主根を侵したり、ガス害なども原因となります。障害が多い場合は、次回、**土づくりと深耕をしっかりと行いましょう**。堆肥などの有機質の施用は、播種の1～2ヶ月前に行い、よく分解しておきます。

軟腐病：根部のみに発生します。初め根部に水浸状の染みが現れ、側根着生部の溝に沿って横筋状に発生するものが多いです。病斑部は徐々に拡大して、円形ないし不整形の斑点となります。地際部に近い病斑は大型のものが多いです。**25～30℃の降雨が多い時期に発病するので、その前にスターナ水和剤等を予防散布して下さい。**

キアゲハ：幼虫が葉を食害します。老齢幼虫は大きく、食べる量が非常に多いため、葉を丸坊主にする場合があります。大発生することはまれで、大きくよく目立つので、家庭菜園では捕殺するのが最も手っ取り早いです。発生が多い場合は**マラソン乳剤等を散布**して下さい。

ネコブセンチュウ：生育が悪く葉が黄色くなり、天気の良い日には葉がしおれます。**発生すると根にコブがたくさんでき、ヒゲ根が多くなります**。被害が多い場合、次回は播種前にネマトリンエース粒剤を土壌混和して下さい。

【防除例】

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り量	収穫前	使用回数	毒劇物
スターナ水和剤	軟腐病	1,000倍	10～30ℓ	7日前	3回以内	
マラソン乳剤	キアゲハ アブラムシ類	2,000～ 3,000倍	10～30ℓ	14日前	4回以内	
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	2kg／1a		播種前に1回		